

道路整備の成果主義への転換

- 石川県道路行政業績計画書策定の背景 -

道路は、私たちの生活に密着した不可欠な社会資本であり、古代より社会生活を支える基盤として整備が進められてきました。

特に、第二次世界大戦後は、急速な経済成長に伴い激増した自動車交通量に対応するため、絶対的に不足していた道路の「量」の確保を目的に、舗装率、改良率、歩道設置率などを指標として、12次にわたる「道路整備五箇年計画」により整備が進められてきました。

石川県内の道路についても、これまでの整備により、一定の量的ストックが確保され、社会経済活動を支えるとともに、県民生活の向上に大きく寄与してきたところですが、まだまだ整備が必要な箇所は残されています。このため、平成14年度に、県内の有識者からなる「石川の道を考える会」からの提言を踏まえ、これからの石川の道路整備の方向性を示す「新しい石川のみちづくり指針 潤いある石川のみち」を策定し、この中で、4つの「みちのあり方」とともに、みちづくりの効果やその進め方の「評価・点検」の実施を位置付けています。

今後の道路整備を進めるにあたっては、社会の要請として、道路整備の優先順位付けを行い、整備効果を「成果」として定量的にとりまとめ、道路利用者に分かり易く説明することが、ますます重要となっています。

このため、今年度から、成果主義にもとづく指標により、県内の道路整備の効果を説明する業績計画書を策定、公表し、より一層、効果的・効率的に事業を進めることとしました。

表 「成果指標」ならびに「新しい石川のみちづくり指針」との関連

<p style="text-align: center;">新しい石川のみちづくり指針 みちのあり方4つの柱</p> <p style="text-align: center;">業績計画書の 「成果指標」</p>	<p style="text-align: center;">生命・生活を守るみち</p>	<p style="text-align: center;">快適で豊かなまちづくり・都市づくりを支援するみち</p>	<p style="text-align: center;">地域の活力を高め、活性化を図るみち</p>	<p style="text-align: center;">細長い県土を一体化し、広域交流を進めるみち</p>
1. 渋滞による損失時間				
2. 高速ネットワーク（いしかわ広域交流幹線軸）確保率				
3. 死傷事故発生率				
4. 冬期の快適性確保率				
5. いしかわ観光周遊確保率				
6. 地域内連絡道路安心すれ違い率				
7. 通学路安全率				
8. 主要駅周辺のバリアフリー化率				
9. 都市交通基盤確保率				
10. ホームページアクセス数	<p>業績計画書をはじめ、道路に関する様々な情報をわかり易く説明します。</p>			